



休館中のため開会が延期されている特別展「名古屋大学による遺跡調査からみる人類史」について、開館までのあいだ少しずつウェブで紹介してきたいと思います。

名古屋大学が調査に携わった遺跡(1948年~2020年)

Archaeological sites investigated by Nagoya University from 1948 to 2020



名古屋大学が携わった遺跡調査の数は国内外の150以上で、そのはじまりは1948年にさかのぼります。それから70年のあいだ、国内では主に愛知県と岐阜県、北海道の遺跡調査を通して、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・飛鳥時代・平安時代～中世にわたる歴史が研究されました。ここ東山キャンパスでも古代遺跡(古代の窯跡)の調査が行われています。

海外では、東アフリカやエジプト、西～中央アジア、メソアメリカにおいて、人類の進化や農業の起源、古代文明、ヘレニズム文化、仏教美術に関する遺跡の調査が行われてきました。

Nagoya University has investigated more than 150 arch in Japan and overseas since 1948. Over 70 years, Na investigated various archaeological sites mainly in A Hokkaido prefectures. Ancient sites were also discover Higashiyama campus.

Archaeological expeditions were also sent to East West-Central Asia, and Mesoamerica to work on interna topics, such as human evolution, origins of agric civilizations, Hellenism, and Buddhist arts.

会場入り口付近には、名大が調査した、150以上の遺跡の位置を示した大きな地図パネルがあります。名古屋を中心に中部圏や北海道、エジプトや西・中央アジア、欧州、そして中米と様々な地域が調査されてきました。ご自宅の近くに調査された遺跡があるかもしれません。



名古屋大学東山キャンパスにもたくさんの古代遺跡があるのをご存じでしょうか。古墳時代～平安時代末期にかけて、須恵器や陶器が作られた窯跡（かまあと）が20基ほど見つかっています。考古学研究室による発掘調査で見つかった須恵器や陶器は、本展の目玉の1つです。

文化遺産カード

NA A A 0 0 3 8

東山61号窯出土遺物



東山72号窯出土 緑釉陶器素地香炉蓋



東山114号窯灰原検出状況

Ver.1.00 2020 猿投窯東山地区(名古屋大学内) MC-AA00000000000000001210

名大東山キャンパスの窯跡は、博物館内の展示だけでなく、現地を訪れることもできます。遺跡案内の地図を展示場に用意しています。遺跡現地には、案内板が考古学研究室によって新たに設置されました。その近くの建物（環境総合館と生協カフェフロンテ）には発掘品を展示しています。さらに、遺跡看板や現地展示を写真にとって博物館の事務窓口に行くと、名大キャンパス遺跡の文化遺産カードがもらえます（先着200名）。展示開催の際には、是非ご体験ください！



名古屋大学は1950年から1968年にかけて東海地方を代表する旧石器時代～縄文時代の遺跡の発掘調査を行いました。その1つの九合洞窟（岐阜県山県市）の写真が展示パネルに大きく掲載されています。この洞窟では縄文土器や石器、ペンダントなどの装身具のほか、イノシシやシカなどの骨がたくさん見つかりました。また、酒呑（しゃちのみ）ジュリンナ遺跡（愛知県豊田市）からは、縄文時代でもっとも古い時期（およそ14,000年前）の隆線文土器が見つかりました。



「北海道の調査からわかる 北の縄文人の暮らし」というコーナーでは、名古屋大学が北海道で調査した縄文時代の遺跡を紹介しています。北海道の縄文人は、アシカ・トド・オットセイを盛んに狩猟して食料としたのが特徴です。遺跡から実際に見つかったアシカの骨が展示されています。また、本州と同じように貝塚も残されましたが、貝塚の保存作業のビデオも放映されていますので、開館の際は是非ご覧ください！